

見直しましょう 環境教育

「21世紀は環境の世紀」と言われています。環境はあらゆる生命の生存基盤であり、今日私たちは、このことをもう一度しっかりと認識する必要があります。特に、地球温暖化は喫緊の課題であり、一人一人に環境に配慮した具体的な行動が求められています。

群馬県では、平成18年度に『群馬県環境学習推進基本指針』を策定し、学校における環境教育のねらいを次のように決めました。

学校における環境教育のねらい

「人と環境」のかかわりについて総合的かつ科学的な理解を深め、環境問題を解決するための知識、思考力、判断力を養い、主体的に行動する態度を養う。

そこで、各学校で行われている環境教育を上記のねらいにつなげていこうという視点から、本冊子を作成しました。

本冊子は、環境教育を進める上での見直しのポイントと環境教育から見た各教科等の指導事例を記載しました。自校の環境教育見直しの際の参考としてください。

環境教育見直しのポイント

環境教育の視点を確認しましょう

環境に配慮した行動につなげていくために、次の3つの視点が必要です。

- 環境への関心を高める。
- 正しい知識を習得する。
- 自ら考える態度を養う。

(環境学習推進基本指針より)

成長段階に応じた環境教育を推進しましょう

各年代に応じた視点を明確にして、継続的な環境教育を推進しましょう。

- 小学校・低学年…関心をもち行動する。自然の中で遊ぶ楽しさを知る。
- 小学校・中高学年…理解し行動する。生き物と環境の関係を知る。
- 中学校期…問題を発見し行動する。自分の考えをもつ。

(環境学習推進基本指針より)

地域の実態から取り組みましょう

環境教育のテーマは地域にあります。地域の身近な問題に目を向けた内容で構成し、身近な活動から学習を始めましょう。また、身近な問題は地球規模の問題とつながっていることを意識できるようにしましょう。

家庭や地域社会と連携しましょう

環境教育は学校の中で完結できるものではありません。『学校の取組を知らせる』『地域の方と活動する』『地域のためにできることをする』など、常に家庭や地域とのつながりを意識しましょう。

(環境学習推進基本指針の「さまざまな場における環境学習の推進」を参照してください)

上記のことを踏まえて、
**環境教育全体計画の整備を
進めましょう**

生活科における環境教育のポイント

- ▶ ポイント ① 身近な環境に全身で触れ、ありのままにとらえる
- ▶ ポイント ② 思いや願いの実現に向けて環境に働きかける
- ▶ ポイント ③ 環境と自分とのかかわりを考える

指導事例 単元名 生きものとなかよし (小学校2年)

目標

生き物の飼育を通して、それらの生態や成長の様子等に気付かせ、生き物への親しみをもたせるとともに、生命を大切にすることができるようにする。

主な学習活動

- ①日常生活や「まち探検」で得た情報をもとに、どんな生き物がどこにいそうか話し合う。
- ②学校農園や学校ビオトープ及び隣接する野原や小川等で生き物を探し、採集する。その際に、多様な生き物がそれぞれに合った環境で生きているということを実感する。



- ③採集した生き物の世話について調べたり、相談したりして、生き物と採集場所の環境を考えながらすみかをつくり飼育する。



- ④生き物の世話をして、生き物ともっと仲良しになるため、一人一人の飼育課題に応じた活動をする。生き物の世話を通して、生き物も自分と同じように生命があり、成長しているということに気付く。
- ⑤「生き物発表会」をして、飼育活動を振り返る。

▶ ポイント ①

自然の中で遊んだり、動植物を飼育・栽培したりする学習活動を通して、身近な環境に体全体で触れ、自分も身近な生き物もそれぞれに合った環境で生活していることを実感できるようにしましょう。

▶ ポイント ②

自分の思いや願いを基盤にした学習活動を通して、試したり、選択したり、製作したりして、積極的に環境に働きかけられるようにしましょう。

▶ ポイント ③

調べる活動や育てる活動を通して、環境と自分自身の生活や行為とのかかわりについて考えられるようにしましょう。

コラム 環境問題って何があるの？

環境問題は、「大気に関する環境問題（地球温暖化・酸性雨等）」「水や土壌に関する環境問題（水質汚濁・海洋汚染等）」「自然環境に関する環境問題（熱帯林の減少・生物多様性の喪失等）」など多岐にわたります。環境教育を行うに当たっては、児童生徒の発達や地域の環境などを考慮し、適切な題材を選択することが大切です。

社会科における環境教育のポイント

- ▶ ポイント ① 実生活とのかかわりを重視し、体験的な活動に取り組む
- ▶ ポイント ② 生産、流通、消費、廃棄のサイクルから環境問題をとらえる

指導事例

単元名 **健康な暮らし～暮らしとゴミ～（小学校4年）**

目標

ゴミのゆくえについて調べ、人々の健康な生活の維持向上のために、ゴミが様々な人々の工夫や努力のもとに計画的に処理されていることを理解する。

主な学習活動

- ① ゴミの分別作業や収集の様子から地域のゴミの量を調べることを通して、ゴミの多様さや多さを実感させるとともに、収集を行う人々の工夫や努力を知る。
- ② 清掃センターやリサイクルセンターを見学して、ゴミがどのように処理されているのかを確かめ、そこで働く人の努力や工夫を調べる。
- ③ ゴミ処理が計画的に様々な人の努力や工夫で行われているのはなぜかを考える。



▶ ポイント ①

自分たちの身の回りのゴミについて、「どのような問題があり、それらの問題はなぜ起こるのか」、「どのような解決策があり、自分はどうすればいいのか」などを考えられるようにしましょう。



- ④ ゴミがこのまま増え続けるとどうなるのかを話し合い、ゴミ問題解決の難しさを実感するとともに、昔との比較をさせるなどして、ゴミの分別や再利用、生活様式の見直し、環境美化運動など自分たちにできることについて考える。

▶ ポイント ②

消費や廃棄における廃棄物の発生抑制（リデュース）や再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の取組の意味などを考えられるようにしましょう。



循環型社会だった江戸時代 ～昔の人たちの取り組みについて学ぼう！～

コラム

300年前の江戸は、人口100万人を越える世界一の大都市でした。当然出るゴミは多かったはずですが、幕末に訪れた外国人は、「世界一清潔な町だ」と驚いたほどです。それはいったいどういうことなのでしょう？回収業者が、紙や金属類、服、炊事によって出された灰、糞尿にいたるまで回収しました。人々は、道具類を何度も修理して使いました。徹底した再利用のシステム（循環型社会）が成り立っており、約350種の職人たちがこうした社会を支えていたのです。江戸時代の人々は、ものを大切にし、「壊れたらなおす」「他に使ってもらおう」など無駄のない暮らしをしていたのです。

理科における環境教育のポイント

- ▶ ポイント ① 身近な自然に親しむ活動や体験を通し、自然から直接学ぶ
- ▶ ポイント ② 学習対象となる自然の特徴を考え、調査や観察、実験などを行う
- ▶ ポイント ③ 資料や調査、実験結果等の考察から環境について考えをもつ

指導事例 単元名 自然と人間（中学校3年）

目標

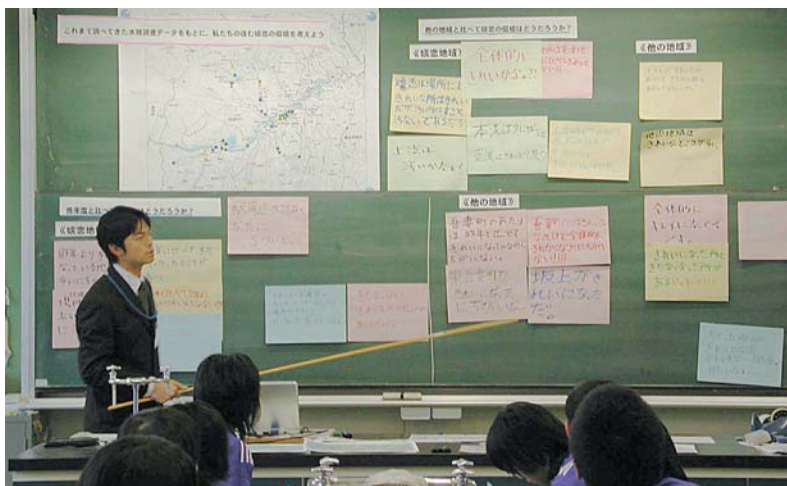
学校周辺の身近な自然環境について多様な方法で調べ、自然界のつり合いを理解するとともに、自然環境を保全しようとする意欲を高める。

主な学習活動

- ①自然と人間のかかわりについて考えるとともに、自分の住む地域の自然環境について調査する方法を考える。
- ②身近な河川で水生昆虫(指標生物)の観察やパックテストを使ったCOD測定を行う。
- ③同じ河川を有する他の学校と協力して、環境について調査をする。
- ④他校と協力し合い、調査結果をマップ上にまとめていく。



- ⑤マップ上にまとめた調査結果をもとに、地域の現状を住宅地や工業地域、商業地域などに関連させて考察する。
- ⑥調査の考察から環境保護について自分なりの考えや意見をまとめ発表する。



▶ ポイント ①

身近な自然を見直し、教材として活用できるようにしましょう。また、自然の中で体験的に学習することを通して、自然の不思議さや素晴らしさに気付けるようにしましょう。

▶ ポイント ②

「生物」「河川」「宇宙」など、学習対象に応じて、観察、調査、飼育、観測、実験などの活動を取り入れましょう。

吾妻川の流域の学校が協力して、水質調査をして、1枚の地図にまとめました。

▶ ポイント ③

環境問題は、様々な事象と関連して生じています。調べたことを多面的・多角的に考察することにより、身近な自然に対する見方や考え方も深まります。

環境問題は、広く資料やデータを収集し、多くの目で考えることが大切です。他校と協力したり、Webデータなどを活用すると考える視野が広がります。

地域の調査例

タンポポなどの植生、トンボやチョウの分布、渡り鳥、河川や家庭排水の水質、大気汚染、酸性雨など

総合的な学習の時間における環境教育のポイント

- ▶ ポイント ① 地域にある学習素材や身近な話題から課題を見出す
- ▶ ポイント ② 様々な情報や体験を基にして環境に対する認識をもつ
- ▶ ポイント ③ 環境に関する考えを深め、保全活動等の実践をする

指導事例

単元名 自分たちの生活と環境問題について考えよう(小学校6年)

目標

身の回りの環境の変化に気付き、環境を守っていくために自分たちでできることについて追究していくことで、環境に配慮した生活の大切さに気付き、実践できるようにする。

主な学習活動

- ①今と昔の川の違いを聞いたり、校区内の川の様子を調べたりする。



- ②川が変化しているのは、自分たちの生活様式の変化が原因であることを知り、生活と環境について学習するめあてをもつ。
- ③班ごとに課題を設定し、調べる計画を立て、計画に沿って調べ活動を行う。
- ・学校や家庭の電気使用量を調べたり、ゴミの分別の状況を調べたりする。
 - ・自分たちの生活が、環境にどのような負荷を与えているのかを考えたり、解決方法を考えたりする。
- ④調べたことを発表したり、環境を良くするために実践できそうなことを話し合ったりする。
- ⑤電気をこまめに消したり、リサイクルをしたりするなど、環境に配慮した生活を学校や家庭で実践する。
- ⑥実践したことを発表する。

▶ ポイント ①

総合的な学習の時間では、課題設定がとても重要です。その際に、地域にある学習素材から特定の現象に気付かせ、そこから子どもたちの好奇心や探究心を刺激し、課題設定にもっていくように、ねらいの明確化と「しかけ」を大切にしましょう。

▶ ポイント ②

課題解決の過程で、人間の活動と環境とのかかわり、身近な問題がより広い地域につながっていること、そして様々な問題が相互にかかわっていること等を理解させ、正しい認識をもたせることが大切です。そのために、「環境についての客観的な理解」や「体験的活動を通しての実感を伴う理解」をさせるようにしましょう。

▶ ポイント ③

環境問題については、知識の取得や理解にとどまらず、自ら行動できる人材を育むことが大切です。そのためにも、児童・生徒の発達に合わせて問題をもてるようにし、その解決のためにすべきことを、子ども自身に調べさせたり、考えさせたりして、実践までもっていくようにしましょう。

コラム 尾瀬学校について

県では、平成19年8月に「尾瀬国立公園」が誕生したことに伴い、尾瀬を群馬県の子どものための環境教育の場として積極的に活用していきたいと考え、尾瀬学校を始めました。バスやガイド料の補助も出ますので、尾瀬を学習の場として御活用ください。

道徳の時間における環境教育のポイント

- ▶ **ポイント ①** 環境に関する見方や考え方を深めながら、環境保全の大切さを感じ取る
登場人物の迷いや葛藤から心を揺さぶったり、互いの意見を突き合わせたりして、環境に関する見方や考え方を深め、環境保全の大切さを感じ取れるようにしましょう。
- ▶ **ポイント ②** 自分自身を見つめ、環境保全の大切さを主体的に自覚する
環境に関する自己の見方や考え方を見直すことを通して、環境保全の大切さを自覚し、環境保全に配慮した生き方をしようとする意欲をもてるようにしましょう。

特別活動における環境教育のポイント

学級活動

- ▶ **ポイント** 学級の環境を改善するための方法について話し合い、実行可能な方法を決定し、継続的に実践していく
教室の環境整備、美化活動、清掃活動などの視点から、学級の環境にかかわる問題を見だし、環境を改善するための方法を話し合わせるとともに、実行可能な方法を集団または個人として決定し、継続的に実践することができるようにしましょう。

児童会・生徒会活動

- ▶ **ポイント** 児童会・生徒会が中心となって、身近な環境の改善に向けた取組を全校的な規模で行う
児童会・生徒会の企画・立案のもと、各委員会や学級で身近な環境の問題や改善する方法について話し合うなどして、全児童・生徒が自分たちの問題として、リサイクル活動や省エネ活動、ごみの減量に向けた活動などに取り組めるようにしましょう。

学校行事

- ▶ **ポイント** 自然体験活動や環境美化活動等を行い、環境に対する感受性や実践力を養いながら、環境保全に取り組む校風や気風を築く
事前に自然を守ったり親しんだりするための方法等を考えさせ、児童生徒の創意を生かした活動を設定するとともに、事後に活動の振り返りを行い、環境に関する考え方や実践力の高まりに気付くことができるようにしましょう。

その他の教育活動や学校生活全般における環境教育のポイント

清掃指導

- ▶ **ポイント** 自らやるべきことを見だし、協力しながら清掃に取り組む

給食指導

- ▶ **ポイント** 給食の残る量が少なくなるように工夫する

学校生活全般

- ▶ **ポイント ①** ごみの減量や分別、リサイクルを行う
- ▶ **ポイント ②** 節電・節水、換気、冷暖房器具の温度調節を行う
- ▶ **ポイント ③** 整理・整頓を行い、機能的で美しい教室環境をつくる
- ▶ **ポイント ④** 持ち物、器具、施設等を丁寧に使用する

環境教育先進校の実践事例

平成18年度
群馬県環境教育賞最優秀賞受賞
吉井町立吉井小学校

- 環境委員会で「人のいない教室は電気を消します」等の省エネ宣言を考えました。
- 毎週、人のいない教室等の電気は消えているか、水道の水は出っぱなしになっていないかなどをチェックし、お昼の放送で全校児童に知らせました。
- 植物による「緑のカーテン」をつくる活動を行いました。
- 「緑色植物の光合成による温度上昇の抑制効果」の研究をしました。



平成18年度
群馬県環境教育賞最優秀賞受賞
伊勢崎市立殖蓮中学校

- 地域の権現山へヤマユリの球根を植える里山づくりを始めました。
- 権現山について、地元在住の環境カウンセラーによる講話を聞き、自然の仕組みを知り、地域の環境保全のあり方について学習しています。
- 初めの年、思うように花が咲かなかったことから、春から夏にかけて数回にわたり、下草刈りを行いました。
- 地域のユリ祭りへ参加しました。



平成19年度
群馬県環境教育賞最優秀賞受賞
伊勢崎市立境剛志小学校

- 学年の発達に応じて、計画的に環境教育を進めています。
 - 1・2年生…生活科などで、おんたけ山や広瀬川など身近な自然に親しんでいます。
 - 3年生…おんたけ山の環境調査を行います。
 - 4年生…地域の産業であるカイコの飼育を行います。
 - 5年生…広瀬川の環境調査を行います。
 - 6年生…学校の花壇整備や地域の緑化活動に取り組みます。



平成19年度
群馬県環境教育賞最優秀賞受賞
藤岡市立北中学校

- 校内から出る紙ゴミを100%リサイクルし、二酸化炭素の排出削減で地球温暖化防止に貢献する「北中紙リサイクルプロジェクト」を実施しています。
- 紙リサイクル活動では、教室・職員室・トイレ・更衣室等に紙回収箱を設置し、職員・生徒全員で回収しています。
- 牛乳パックの回収の際には、環境浄化微生物「えひめ-AI2」を活用し、汚水対策をしています。



■発行 平成20年3月

■発行者 群馬県教育委員会（義務教育課）
電話 027-226-4615
FAX 027-243-7759

